平成 21 年度研修員　柴田昌和さんの声

プロフィール

幼少期から高校卒業までブラジル、アメリカで計１５年間過し、その後慶応義塾大学で国際関係学を専攻。IT 関連企業、広告代理店勤務を経た後、UNDP（国連開発計画）アンゴラ事務所では市民社会を繋ぐ IT 基盤整備事業に携わり、UNICEF（国連児童基金）ブータン事務所及び OUNF&P（国連基金・計画）カーボヴェルデ常駐調整官事務所では広報を担当。現在はスウェーデンの大学院で開発コミュニケーション学を専攻中。

１．平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

大学で国際関係学を専攻していたものの、過去に平和構築について学んだことがありませんでした。よって、和平プロセスの安定化、国家制度の再構築、そして紛争予防など、平和構築に伴うプロセスについて体系的に学べる「平和構築人材育成事業」の内容に興味を持ちました。更に、この分野の第一線で活躍されている研究者、実務家からなる講師陣により、実践的な指導を受けられること、そして、それぞれの分野で経験が豊富な研修員たちとの交流を通じて、平和構築に対する考えを深めていけることに大変魅力を感じました。

２．国内研修の感想は？

講義やワークショップを通じて紛争解決からその予防への取り組みなど、平和構築における課題やプロセスについて深く理解しただけでなく、研修員同士で生活を共にしながら、知識や考えを分かち合う機会にも恵まれました。平和構築の複雑なプロセスとメカニズムについてクラス内外で論じ合い、意見交換ができたことは大きな意義がありました。そこで生まれた、平和への思いを共有する仲間との絆は今でも健在で、今後も長く大切にしたいと思います。そして私たち研修員の活動が、平和共存へ向けての手助けとなることを望んでいます。

３．海外実務研修での活動について教えてください。

カーボヴェルデ常駐調整官事務所（以下：カーボヴェルデ国連事務所）では、主の業務として：１）同国連ウェブサイトの構築からその管理、運用、またそれに付随するコンテンツの開発。２）出版物やプレスキットの原稿作成及びそのデザイン、制作。３）行動変化（Behavioral change）を促すテレビ CM や国連の活動を訴求する映像の制作。４）イベントやキャンペーンの企画や運営、またそれに伴うコミュニケーションツールの開発。以上が含まれました。ウェブサイトに関して、広告代理店に勤務していた時はプロデューサーとしての役割がメインでしたが、

【カーボヴェルデ国民は一期一会を大切にする。出会った漁師にその場で漁に誘われ、タイガーシャークの水揚げから一コマ。】

サイトの設計やデザインを行う際に直接活かされたのは、学生時代に習得したプログラミングの経験でした。同国連サイトを立ち上げた際には、大勢の職員に喜んで頂けました。

国連の活動を幅広く知ってもらう為の原稿を作成することも求められました。現地の一般の人に分かり易く伝えるにはどうすればいいのか、悩むこともありました。ウェブ用のニュースや映像のストーリーを構成する際に、ビジュアル要素も取り入れ、興味を引き出す工夫を行ったり、現場の受益者の声を反映するためのインタビューを取り入れたり、試行錯誤を重ねました。原稿は内容によって報告書や出版物として転用することもあり、サイトをはじめ、開発したコンテンツはfacebookやtwitterなどのソーシャルメディアを活用し、バイラル展開します。

【国連のイベントは市民を巻き込んで盛り上げる工夫が沢山。家族で楽しんで学べる一日。】

１２月５日の国際ボランティアの日に向けて制作したテレビCMは１週間、国営テレビで放映されたことをきっかけに、各種ソーシャルメディアでも反響を呼び、カーボヴェルデ国際映画祭に招待されました。通常国連での業務はオフィス内で完結することが多いのですが、CMや、映画祭や大学などで作品について発表を行う機会に恵まれた事により、来場者や学生との交流をはじめ、近所の顔なじみの皆さんからも、作品を通して国連の活動に対する生の声を聞くことが出来ました。広報の仕事は内外の声に耳を傾ける事も必要になります。作品への評価もそうですが、国連改革の影響や効果を、肌で感じる機会が沢山あったことは、自分自身、そして毎日の仕事への励みにもなり、非常にいい体験でした。

また、個人的な活動として撮影してきた写真も同僚に評価され、フォトグラファーとしての活動範囲も広がりました。サイトを始め、出版物やコミュニケーションツールとして使用する要望がいくつかあり、その結果、国連とフランス文化センターの全面的な支援の下、個展を開く事に繋がりました。多くの方に「見たことのないカーボヴェルデの表情」とコメントを頂き、今後とも、想いと行動を持って、ここで出来た大切な人々との御縁を大事に関わり続けて行きたいと思っています。

【大自然はカーボヴェルデの最大の魅力。陸からクジラの親子やイルカのジャンプも見える。世界有数のアカウミガメの産卵地としても知られる。】

４．海外実務研修の感想は？一番印象に残っていることは？

公私ともに大変充実していました。派遣先となったカーボヴェルデ国連事務所では広報官として約２年間赴任しました。この国は世界で８つあるOne UN（ひとつの国連）改革のパイロッ

ト国の一つです。UNDP、UNICEF、UNFPA（国連人口基金）、FAO（国際連合食糧農業機関）、WHO（世界保健機関）を筆頭に 20 余りの国連諸機関が One UN として展開しています。国連改革の取り組みの一環である”One UN”とは、国連常駐調整官のリーダーシップのもと、国連諸機関が一体となり、ひとつの事業計画と予算の枠組みの中で、パートナー国に支援を行うことを意味します。また、オフィスを共有することで重複する業務やコストの効率化を図ることや、国連諸機関間の比較優位性を活かした連携を行うことによって、効果的に資源を活用し、パートナー国の開発目標を達成することを目標としています。今回、私の広報官としての任務は、この改革に沿ったコミュニケーション戦略の立案からその実行、運用まで多岐に渡りました。

【国連事務所から徒歩５分のところにもビーチがあり、仕事帰りには頻繁に地元の若者たちとサッカーに興じた。海は断水時のシャワー代わりにも。】

One UN イニシアティブの内外コミュニケーションの受け手は、現地政府を始めドナーや各種開発パートナー、そしてマスコミや市民社会等が含まれます。One UN といっても国連諸機関はそれぞれの理念（mandate）を持って事業展開するので、現場レベルではまずスタッフ同士が互いを良く知ることからはじめ、共通の開発目標（MDG 達成）に向かって働いているという意識向上が必要となります。コミュニケーションの観点からすると、内外的に国連諸機関のアイデンティティを維持しつつ One UN として、国連の標語“Delivering as One”でも謳われるように、一貫性を持った橋渡し的なサポートを行うことが求められると思います。

最後に、パイロット国としての実績を評価するにあって、第４回国連ハイレベルパネル会議が昨年１１月にウルグアイで実施されました。One UN の横断的テーマとしてカーボヴェルデは HIV/AIDS を取り上げ、それを紹介するビデオ映像制作を担当しました。HIV/AIDS に関して UNDP はその政策支援を行っており、また UNICEF は PMTCT（母から子への感染予防）プログラム、UNFPA は SRH（生殖に関する健康）プログラム、WHO は疫学的監視プログラム、UNODC（国際連合薬物犯罪事務所）はその治療とリハビリテーションプログラムの支援を国連機関間作業部会（Interagency Technical Working Group）を通じてパートナー政府に対して実施しています。まさに国連システムのコラボレーションを象徴する事例です。映像は、肉声とその表情を直接届けることが可能なメディアです。医師や PMTCT を受ける母親、ウイルス感染した子どもを受け持つ教師、そして未来を支える青少年たちの思いを伝えるべく、彼らへのインタビューを軸に構成したショートドキュメンタリーを制作し、ウルグアイでのパネル会議のプレゼンテーションに利用されました。

アンゴラ、ブータンに続く３カ国目となる今回のミッションでしたが、各国連諸機関や国別事務所の人材、文化、そしてニーズは多様だと改めて思いました。カーボヴェルデ国連事務所では、そこで One UN として活動する国連諸機関の数でも表されるように、多くの異なる国籍、文化、バックグラウンドを持つ人たちと共に仕事を通じて心を通わせることが毎日の業務の中

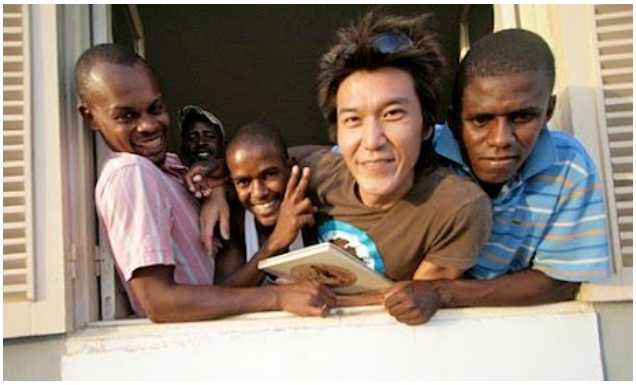
にあり、その力を鍛練されたという実感があります。それらはこれから更なる活動の為の財産になると信じています。今後はまた、One UN で象徴される開発分野においての国連改革が更に加速して行くことが予想されています。

５．今後のキャリア・プランを教えてください。

現在はスウェーデンの大学院で「開発コミュニケーション学」を専攻しています。グローバル化が更に加速し、複雑さを増す世界情勢のなか、人々が相互理解を深めるための「コミュニケーション」の役割は、ますます大きくなるでしょう。ネットワーク社会が拡散する中、お互いが理解を深め共存するために、今後も「コミュニケーション」がどのような役割を果たすべきか、メディアの役割と合わせて考えていきたいと思っています。

６．平和構築人材育成事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

人の手で作られた問題は必ず人の手によって解決できると信じています。その実験室のひとつが国連だと思います。国連の大きな魅力のひとつは、その多様性にあると思います。世界各地から国連旗の下に集う職員たちは、その青い空や海を、そして地球を、その理念と共に共有する仲間です。本プログラムでは、国際社会を意識しながら、異なる文化や生活習慣を通じて、想像以上の学びと体験があると思います。地球規模に山積する問題：環境破壊、戦争、核兵器、貧困等について考える時、人々が協力し合わなければ、それらを予防、阻止する事は出来ません。「国際協調」と聞くと、とても達成困難なことのように思えますが、結局は個々の人々が心を通わせ合い、相手を理解しようという気持ちから生まれるものだと思います。



【地元のミュージシャンたちと。あったものはギター一つだが、豊かな時間の流れを楽しむことにかけての彼らの才能はピカイチである。】

カーボヴェルデという国は、内戦を経験せず、独立から現在に渡り政情も安定しています。そこでなぜ「平和構築」かを考えた時、やはり平和を維持していくことの弛まぬ努力が何よりも大事という事実に帰結するでしょう。この努力に並々ならぬ心血を注いで来たその土地の先人たちから受けた恩恵を国民が日々感じていることも、しばしば肌で実感しました。

互いを尊重し、理解を深めあうというその「意識」に「コミュニケーション」が果たす役割が大きく、その為に広報官として派遣されたのだという認識を新たにしました。少しでもこの「平和構築人材育成事業」に興味を持たれたのなら、是非チャレンジしてみて下さい。一歩を踏み出すこと、そこに大きな意味があると、今改めて思います。

平成 24 年 2 月

平成 21 年度研修員
柴田　昌和